



2005年(平成17年)
3月号(No. 718)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

URL●<http://www.jac.or.jp>
e-mail●jac-room@jac.or.jp

創立100周年 記念事業推進経過報告

行事実行委員会

創立100周年記念事業の内容については、会報『山』の「100周年ニュース」で逐次報告してきた。いよいよ2005年になり、活動も活発化し、予算もそれぞれ確定したところで、1月の理事会において経過報告がなされた。記念事業を会員全員の参加で、というモットーの下に実施されているので、活動内容を十分に知っていただき、いっそうのご協力を得たいと思います、以下にその概要を記す。ご要望、ご質問があれば、どしどしお寄せいただきたい。

■記念史刊行委員会 百年史刊行

百年史編纂の準備は創立80周年の頃から始まり、創立90周年の実行委員会の小委員会として発足し、今日に至っている。

本編の中心となる「通史」については、すでに執筆が開始されている。これを補充する「各論」については、分担して執筆し、簡易年表も付ける。資料編の材料はかなりの量が準備されており、内容構成を予算の見通しを含めて3月までに決定したい。

目次

創立100周年記念事業推進経過報告	1
中央分水嶺踏査	4
報告	6
事業・乗鞍高原懇親スキー	
支部だより	7
秋田/山形/宮崎	
東西南北	9
シュラギントワイト『アトラス』	
旧蔵者のたわごと	
Climbing & Medicine	43
図書紹介	11
会務報告	13
新入会員・図書受入報告	14
INFORMATION	15
ルーム日誌	15

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時

編集方針として「わが国における近代登山発展の歴史を、政治、経済、社会、文化の動きのなかでとらえ直し、そのなかで日本山岳会が果たしてきた役割を描き出し、この際、当会の史料についてもできるだけ究明し、将来展望についても探る」としている。

予算としては、会員全員への配布を前提として、編集、印刷費に1800万円、発送費に350万円を計上している。

ただし、配布についてはいろいろな意見が出されており、2006年6月の出版までに十分各方面の意見をうかがい決定していく方針である。

英文ジャーナル刊行

「日本の登山界は世界から孤立している」との海外からの声に応え

て2001年10月に英文誌『Japanese Alpine News』(JAN)第1号を発行して本年までに第7号となるが、100周年記念事業の一環として、日本のアルピニズムの100年を回顧し、固有の山岳文化を語り、日本人の成果を総括して海外に発信することを目的とした記念号として英文ジャーナルを発刊する。

構成としては、第1部を「日本のアルピニズムと登山文化」、第2部を「2005年の価値ある記録」とする。第1部が100周年を記念するもので、すでに8章に及ぶ項目と執筆者が決定し、執筆依頼もなされている。また、世界の山における日本人の初登頂、新ルート初登攀リストもつけられる。予算として400万円が計上さ

れている。

新日本山嶽誌

長期にわたって計画、準備されてきた『新日本山嶽誌』が、いよいよナカニシヤ出版から発行される運びとなった。総論として、日本の山の特徴を各方面から挙げ、山地ごとの解説、各種資料が掲載される。本文として、山系ごとに詳しくその山について語られており、この執筆については、日本山岳会の全国の支部の多くの方々が担当して健筆をふるわれた。

日本の山についてのすべてを語る大部なものとして、全国各地の図書館に購入を促進すると同時に、一般書店でも販売する。日本山岳会の会員には、特別価格で販売されるので、奮って購入されたい。

■登山委員会

海外登山

従来の日本山岳会の周年記念事業としては、ヒマラヤの高峰に大規模な登山隊を派遣してきたが、近年登山のやり方が大きく変わってきており、できるだけ多くの登山隊を応援して記念事業に華を添える方向で実施している。すでに東海支部のローツエ南壁冬期登攀、関西支部の西チベット未踏峰2つ

の登攀ならびに河口慧海の足跡調査、学生部のムスタンでの未踏峰登頂の3つが実施された。2005年に入って次の4隊の派遣を応援することが決定している。

すなわち、1、事業委員会主催のマナスル峰(8164m)の登頂、2、福井支部主催のチベット、ニンチエンタングラ山脈・ジャナリズ峰(6214m)の登頂、3、富山支部主催のネパール、アンナプルナ・ヒマールの北東部のギャジカン峰(7038m)の登頂、4、東海支部第8次インドヒマラヤ登山隊の無名峰(6160m、6206m)の登頂である。登山隊補助費として1千万円を予算として計上し、補助を行った。

中央分水嶺踏査

国内登山の記念事業として、日本を貫く中央分水嶺の完全踏査を企画し、全国25支部ならびに首都圏を中心とした多くの同好会の全面的参加を得て、すでに実行段階に入っている。参加する会員の延べ人数としては、日本山岳会をはじめ、かつて以来の大人数となるだろう。割り当てられた全区間をすでに踏査し終えたのは静岡支部だが、多くの区間で着々と踏査実績があが

っており、昨年末の踏査率は約50%と見られる。今後、残雪期の踏査などで達成度を上げていくと思われるが、どうしても踏査しえないところを、誰がどのようにして踏査していくかが問題になってくるだろう。各方面の協力を得て、できるだけ完全踏破を目指して努力していきたい。

2006年の総会をめぐりに踏査報告が出される予定である。GPSの購入、シンポジウムの開催への全国支部からの参加、報告書の作成費などで450万円の予算が計上されている。

海外トレッキング

「海外における日本人の足跡をたずねて」をテーマに、世界の4地域にそれぞれ3コース、計12コースのトレッキングを実施する。

すでに昨年11月の会報『山』に別刷りで8ページにわたる企画案内書を添付して、会員の皆さんの参加を募集している。日本山岳会の会員が企画した極めてユニークな内容のトレッキングであり、実は、山岳トレッキングの経験の深い当会会員経営の専門業者によって行われるので、大勢の会員の参画を期待している。現在は会員

のみに限定しているが、今後の動向を見て、会員の友人などへも案内していくことも考えていきたい。問合せおよび申込みは、それぞれのコースの担当会社にしじお寄せいただきたい。

■式典委員会 総合式典

日本山岳会の創立は1905(明治38)年10月14日である。100周年の記念すべき日の式典を、2005年10月15日(土)に、東京の新高輪プリンスホテル・国際館パミールで開催することが決定している。全国の会員のできるだけたくさんの方に参加していただきたいので、今から予定に入れておいていただきたい。なお、2005年度の年次晩餐会は行わない。式典は、日本山岳会の100年の来し方を偲び、来るべき第二世紀への新しい歩みを踏み出す記念すべき日としたい。内容については、現在鋭意検討中であるが、参加した人々の記憶に長くともめ得るものにしなければならぬ。国内外のどのような方々を招待すべきか、会費をどのくらいにすべきか、記念品をどのようなものにするべきかなどを今後検討していく。

原則として徴収した会費で式典を実施したいが、種々の補助として370万円の費用を予算として計上している。

記念映像資料

東京における総合式典実施時に、会場写真展を開催する。『写真で見る100年史』と題して、日本山岳会の100年間の歩みを目で見られるかたちで展示する。

また、使用した写真を小冊子に収録し、会員に配布することも企画している。すでに会報『山』1月号で広く皆さんに写真提供をお願いしているが、特に戦前に足跡をしるした山行の記念写真など、今まであまり人の目に触れなかった写真を提供してくださることを担当者は望んでいる。予算として310万円を計上している。

ブロック別式典

全国を8つに分けてそれぞれ創立100周年を祝う式典を開催するが、日時、場所が確定したので次に記す。

●北海道ブロック(北海道支部)
8月26日(金)・札幌市「アパホテル札幌」

●東北ブロック(青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島各支部) 5

月28日(土)・「ホテルリステル猪苗代」

●中部日本ブロック(越後、信濃、山梨、静岡各支部) 9月17日(土)・新潟県関川村「御宿 玄太郎」

●東海ブロック(東海支部) 10月

29日(土)・名古屋市「ホテルローズコート」

●京岐北陸ブロック(京都、岐阜、福井、石川、富山各支部) 6月11日(土)・福井市「ユアーズホテル」

●関西ブロック(関西支部) 11月5日(土)・和歌山県高野山「高野山大学講堂」

●中国ブロック(広島、山陰各支部) 9月17日(土)・広島市「ホテル八丁堀シャンテ」

●九州ブロック(福岡、北九州、東九州、熊本、宮崎各支部) 7月

16日(土)・宮崎県「えびの高原荘」

式典開催の翌日に、近くの山に登るといふ計画のブロックが多い。

式典開催の支援と、本部から派遣する役員の交通費で計300万円を計上している。

記念フォーラム委員会

創立100周年を迎えるにあたって、さまざまなテーマで今後の日本山岳会のあり方を考えていこうという趣旨で、フォーラムの開

催を考えている。今後、ヒマラヤ登山についてや、日本山岳会の登山についてなどのテーマでのシンポジウムの開催を計画中であり、詳細がつめていかれる。予算は300万円を計上。

高尾の森づくり活動

自然保護委員会が中心となって実施してきた「高尾の森づくり」での例年の植樹祭を中心に、自然保護全国集会などを開催する。

4月9日(土)・高尾の森わくわく

ビレッジで、午前中に自然保護全国集会を実施し、午後、ミュージ

カル「天狗の隠れ里」とシンポジウム「森林と人間の共生」を開催。

4月10日(日)・第5回「高尾の森植樹祭」と裏高尾小下沢国有林で

2千本の植樹。

これらの活動に対して120万円の予算を計上している。

白山山地育林事業

青森支部が実施している「白山山地育林事業」活動では、6月25日(土)に植樹祭を開催する。

猿投の森づくり

東海支部が本年4月より新たに活動を開始する。

所蔵山岳図書・絵画展

当会が所蔵する貴重な図書およ

び絵画を一般に公開する。本年10月8日より17日まで東京駅丸の内口の「丸善」の新社屋の4階で展示を行う。

図書は、洋書約60点、和書70点が展示される。同時にこれらの貴重な書籍の図録を作成して販売する。

当会が所蔵する貴重な絵画についても、すでに選定を終え、図書展を実施する会場の壁面に展示する準備が進んでいる。

予算として230万円を計上している。

医療ハンドブックの発行

近年の中老年登山者の急増にもなう山での病気や事故を防ぐ目的で「山の救急医療ハンドブック」を作成し、山と溪谷社のハンドブックシリーズの1冊として本年6月に発行する。この一部を買い取り、会員に頒布する予定。

現在、医療委員会から資料の提供を受けて、わかりやすい内容で執筆中である。

本書は、総合記念式典において展示を行う予定もある。

ハンドブック買い取り費用、展示費用、シンポジウム開催費用として110万円を計上。



大水上山から平ヶ岳方向の展望

かつては刈り払いを実施したところも、今は背丈を越すチシマ笹に覆われ、進路標定に苦労する状況となっている。当支部では、分担区間を大きく3区に分け、区によってはさらに分割し、それぞれに正副班長を割り当て踏査を実施した。

至仏山から丹後山間は、区間中最も難易度が高い。残雪期を選び、4月下旬に単独行（小林重一会員：エヴェレスト登頂者）で踏査したが、春の好天は続かず、困難を極めた。途中2日間の停滞を余儀なくされて、踏査に6日間を要した。無雪期ではなおのこと、灌木と笹藪で進路標定が難しく、踏査は一層困難を極めるであろうとの報告である。

大水上山から巻機山間も登山道がないため、4月29日から5月2日の残雪期に実施した。巻機山から清水峠間は2班に分割したが、チシマ笹と悪天候に悩まされ、2度の挑戦も空しく一部は平成17年の残雪期に持ち越した。未踏査部分は4月中旬に再調査の予定である。

清水峠から谷川岳（トマノ耳）区間の主稜線は、登山道は整備されているが、縦走者は少ない。途中マチガ沢やノ倉沢の源頭尾根は痩せており、笹で覆われているので、通過には細心の注意が必要である。新潟県と群馬県への往来峠でもあった蓬峠周辺は、チシマ笹の繁茂が進んで高山植物への影響が出ている。戦国の武将も往来したという清水峠越え道は、今は送電線の関係者が歩く程度だが、場所によっては往時を偲ぶせる雰囲気を残している。谷川岳から平標山間は、1日行程の縦走路であるが、やはり歩く人は少ない。

平標山から三国峠は、本踏査事業の最後に三国峠で打ち上げ式を実施する計画で、残してある。一部、平成17年度に持ち越したため、本年6月に支部会員大勢に呼びかけ実施する予定。あとは好天を祈るだけだ。

（横山 征平）

福井支部

老将に思いを馳せる分水嶺

福井支部は、岐阜県白鳥町松峠から岐阜・滋賀・福井の3県に跨る三国岳を経て、滋賀県境の大御影山までの162.9kmを担当している。このうち、平家岳から温見峠までの26.6kmは、石川支部が担当し実施してくれている。

支部では、松峠から平家岳を井上彪会員、温見峠から栃の木峠を宮前庄三会員、栃の木峠から大御影山を井上泰利会員の担当とし、全会員が何らかの立場で参加するよう総会で呼びかけ、踏査を実施している。昨年の福井豪雨で林道が土砂崩れで通行不能となるハンディを乗り越えて、越美の国境は松峠から油坂峠まで踏査が完了した。栃の木峠から大御影山についても85%が踏査済みである。

ここでは柳ヶ瀬山についてご報告したい。10月31日、国道365号線で栃の木峠から滋賀県に入り、椿坂峠からこの山に向かった。私を含めて福井支部のメンバー15人が参加した。

峠から、別荘地へと向かう私道に入ったが、別荘地のなかは道が輻輳していた。住人の許しを得て敷地内から登り、三角点を見つけた。ここからは藪こぎ。広い尾根に出たが、分水嶺がわかりにくい。しかも、林間でGPSが効かない。登りだして3時間40分、ようやく送電線の巡視路に出て、鉄塔がある広場に着いた。久しぶりに大勢の仲間と楽しいひと時を過ごした。

さらに40分で玄藩尾城跡に着いた。広くよく整備されている。ここは柳ヶ瀬山の頂で、戦国時代の柴田勝家の本陣が置かれたところでもある。桜並木の歩道の先に、標高439mの三角点が確認できた。刀根越えをし、玄藩尾城登山口から敦賀の人たちの車で、椿坂峠まで送ってもらった。

（宮本 数男）



柳ヶ瀬山での記念撮影



中央分水嶺踏査



総延長：5000km
踏査率：41.6% (2005.2.28現在)
延べ339日、1839人参加

東九州支部

自衛隊演習場内を踏査!!

「阿蘇くじゅう国立公園」とその周辺には、阿蘇外輪山や久住、飯田高原などのたおやかな草波が広がり、「九州中部大草原地帯」とも呼ばれている。多くの観光客、登山者を魅了しているが、その中にあってほとんど人に知られていない広大な草原がある。「豊後富士」の異称を持つ湯布岳^{ひじゅうだい}の西に広がる日出生台草原である。

湯布院、別府などの近くにありながら、なぜ知られていないのか。古くから陸軍、陸上自衛隊の演習場として使用されたため隔絶され、最近では沖縄米軍の射撃訓練場にも利用されているからだ。

そのど真ん中を中央分水嶺が通っている。東九州支部が担当する96kmのうち約14kmとかなり長い。だが、演習場、つまり高原一帯は鉄の柵に囲まれ、常に歩哨が立つ厳しさ。砲弾が飛び交う演習時間だけでなく、通常も立入禁止。それでも歩かせてもらわねばならない。

支部では昨年夏、管理機関の湯布院駐屯地と何度か



前方は旧陸軍建造物（高台の上）

交渉した。窓口は広報室長（二等陸尉）で、意外にも大きな興味を示し、計画書、地形図、参加者名簿を添えて「基地見学申込書」を出せと言う。問題は踏査時期だった。演習は西日本各地の自衛隊が順番待ちの状態で、土、日曜日の連続2日の日程を入れるのはかなり困難という。隊と当方との調整を重ねた結果、許されたのは春秋の一時期に設けられている演習場環境整備期間のうち、11月27、28日の2日間だった。しかも大分県当局と防衛庁の間に交わされた使用規制の「自然環境保全地域」への立ち入りもOK。

初日は陸尉、2日目には広報隊員が案内してくれた。複雑に波打つ草原の分水嶺は、2.5万地形図でも正確には読みとれない。晴天に加え、地形を熟知している隊員のガイドはおおいに助かった。

旧陸軍時代の射撃指示台の跡、弾着を確認する半地下式の壕なども通り、実弾射撃の着弾地では無数の砲弾の破片の間を歩いた。初日に演習場境界線から草原部分の大半を踏査、2日目は演習場を見下ろす福万山頂に向けて、森林帯を地図を頼りに登った。

湯布院駐屯地は、連絡、調整から案内、さらに支部員の駐車場の確保ほか、2日間の踏査開始地点から終了地点間にジープまで用意してくれた。ご協力に深く感謝したい。

(飯田 勝之)

越後支部

三国峠の打ち上げ式目指して!

越後支部の担当は、尾瀬への入口になる鳩待峠から至仏山（ここから県境に沿う）、大水上山、巻機山、清水峠、谷川岳、平標山、三国峠までの約87kmである。標高は2000m前後だが、谷川連峰の主稜を除けば登山対象からはずれており、登山道は整備されていない。

報告

3月

Report

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です

事業委員会

乗鞍高原懇親スキー

2年ぶりに参加した事業委員会主催の懇親スキーは相変わらずの盛会だった。

思うにこのイベントの特長のひとつに参会者のリピーターの多さがあげられる。92年次入会の小生にとって、最初に懇親願った94年正月の八方池山荘以来12年中7回参加の記憶を辿ると「やつ、どうも。お元氣ですか」という顔と顔のなんと多いことか。ことほど左様にこの企画、ファミリーアルで同窓会みたいなもの。

さて、創立100周年節目の年の初頭のスキー懇親会は1月8、10日、乗鞍高原にて開催。宿は信濃支部保科文人会員経営の「ヒュッテほし」。天気は入、下山の前



快晴の乗鞍高原で

後を晴れ日に挟まれ、中9日は時折薄陽見えるものの日がな小雪。例年2倍超の豊富な積雪量を誇るこのスキー場も、昨年来の異常温暖化のためかゲレンデにブッシュ、

小石なども散見。とはいえ標高1500m以上の雪はさすがに軽く、我々の稚拙な足前をしばしレベルアップの錯覚に誘ってくれる。

初日、早く着かれた方々は昼頃にすでにゲレンデ、山スキーに行つた由。午後到着組も三々五々足馴らしへ向つて、夕刻宿の送迎バスで帰館。風呂は真正の掛流し単純硫黄泉。24時間入浴可のため、朝な夕な、飲んでる合間、寝る前とこれが実に快適。夕食時、オーナーの保科さん、信濃支部長の中野さんよりご挨拶と差し入れの品々の紹介。その後折にふれ信濃支部の中島さん、信濃出身の河西さんの思い出話が語られた。当夜の目玉料理は鴨のつくね鍋。二次会々場はなぜか我等の居室12号室へ」と遠藤源太さんよりのご下命。部屋的位置が浴室の入口に面しているため、風呂の空き待ち女性会員も入れ替り訪っていた。2日目、シール用意の有志8名がリフト終点より小雪降りしきるなかを位ヶ原方面へ出発。ゲレンデ組はスキー講習会と各々足前、気の合つた新旧知のグループに分かれ、宿の迎えのバスまで目いっぱい滑降。2度目の夕食時、改め

山研からのお知らせ

山研の管理人が、4月からかわります。新しい管理人は内野真一(33)、かおり夫妻です。今まで冷池山荘や赤石小屋で働いていましたが、長女あすみちゃんの出産を機に、もう少し人里(?)にある山小屋ということで、山研で働いてもらうことになりました。よろしく願いいたします。今までの管理人・木村太郎君は、上高地のネイチャーガイドという新しいステージを確率すべく、本年は五千尺旅館の宿泊者を主に、上高地で引き続き活躍いたします。こちらでもご声援ください。

山研は、本年は4月30日より宿泊できます。予約は、4月30日までは本部事務局へ、それ以降は直接山研(FAX 0263-95-2635)へ申し込んでください。

て信濃支部の金子さんよりご挨拶と乾杯のご発声。酒は惜しみなく注がれ、会場はやがて再び我等の部屋へシフト。

翌10日快晴の下、集合記念写真撮影後大概のソリークたちはゲレンデへ駆け付け、各々許す限り滑りまくった由。参加者42名(2泊目宿泊者数)。(村山 裕)

創立100周年記念事業にご協力を

秋田支部設立45周年記念祝賀会が平成16年11月27日(土)、秋田市の歓楽街の一角にある第一会館ホールで開催され、支部会員31名が出席した。

当日の朝は瞬間最大風速36メートルを超える強風が吹き荒れるなどのアクシデントがあったが、開始ごろには穏やかさを取り戻し、お天道様も祝賀会をお祝いしてくれた。

第一会場の壁面と壁際のテーブル

秋田支部 設立45周年 記念祝賀会開催

秋田支部



全国各地の支部から、独自の活動状況をレポートします。

ルに、会員持ちよりの写真、写真パネル(100点)、モリヤピッケルとモリヤをモデルにした永井ピッケルとアイゼン、日本最初期のガスバーナー、韓国・智異山と秋田・太平山との姉妹山協定締結証、韓国山岳会との交流により交換された記念の品々、山のテレカ、分水嶺踏査地図、オークション用の書籍が展示され、いつもの集まりにない華やかな雰囲気包まれた。

16時、今野昌雄会員のチョモランマ登山報告が始まった。ペーパーでの資料とスライドにより約1時間にわたって行われた。会場の壁際のテーブルには使用した用具などが並べられ、ユーモアを交えたひとつとした語り口に魅せられたひとときであった。

次いで「モリヤピッケル」の創案者である吉川信市会員がモリヤピッケル誕生のエピソードから所有者の追跡調査にいたった経緯が話され、改めて「モリヤピッケル」の持つ不思議な力が会員の胸に刻み込まれた。

その後、全員で記念写真を撮り、祝宴に移った。

鈴木事務局長の司会で開会、まづ物故会員への黙祷のあと、佐々木支部長が45年間の活動の概要を盛り込んだ挨拶をした。

次いで、支部顧問の岡田会員から祝辞があり、長岩会員の乾杯の発声で開宴した。長岩会員の「45周年記念」の名入れをした書類ファイルを出席者全会員に配布するなどの気配りや、記念訪韓登山に参加した会員外の方からの芳志、会員有志のお祝い金の拠出など、記念事業へのあたたかい理解が随所に見られ、今後の支部運営に大きな力となった。

40周年の時のように、延々と祝賀気分になるわけにもいかず、祝いの酒がほどよく全身を巡ったところで、支部顧問の進藤会員の音頭で祝宴を締めた。

千年紀代最後の年が40周年だったし、次の50年の節目に向かう初年度は本会の設立100周年の年にあたるなど、わが支部はいつも縁起の良い巡り合わせにあらう。今後も秋田支部の存在を再確認し、磐石の組織を継続させたいものである。

(鈴木 要三)

山形支部

樹氷原を滑る会

1月22、23日の両日、山形蔵王で14名の参加者を得、中央グレンデ独鈺沼湖畔にある「蔵王国際ホテル」に集合、夕食前に中央分水嶺踏査の今後の日程について、参加者で話し合い、その後懇談会に入った。

話題はやはり、創立100周年記念事業である分水嶺参加者各自の苦労話などで盛り上がった。

翌日8時30分グレンデ集合、青空も見え、風もなく絶好のスキー

大姑娘山 (5025m) 登頂 10日間

憧れの青いゲシを求め
高山植物が誇う
中国5000m峰へ

A) 6/28 (火)	B) 6/30 (木)	C) 7/1 (金)
D) 7/5 (火)	E) 7/8 (金)	F) 7/12 (火)
G) 7/15 (金)	H) 7/19 (火)	4/14 (木) 13:30~
I) 7/22 (金)	J) 7/26 (火)	説明会&セミナー開催!!

代金 A,B) 298,000円	C) 320,000円	入場無料
D,E,F) 325,000円	G,H,I,J) 336,000円	要予約

山旅専門旅行社 **アミューストラベル株式会社**

〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4 KN新宿ビル11階

TEL: 03 (5919) 1188 FAX: 03 (5919) 1189



地蔵山頂駅で撮影後、樹氷原を滑る

日和だ。リフトを乗り継ぎ、地蔵山頂駅に着き、地蔵さまに安全を祈願し記念写真を撮る。今年の樹氷のできればは非常に良い。やがてそれぞれ滑り出す。樹氷を見ながら楽しくスキーを満喫し、午後全員つつがなく解散した。

(長岡 昭雄)

宮崎支部

新支部長

井野元繁会員の紹介

平成16年10月、宮崎支部は8月に逝去された大谷優支部長の後任として井野元繁会員(9674)



井野元繁新支部長

を満場一致で新支部長に選出した。井野元氏は、魚本定良初代支部長、大谷優前支部長との交流も深く、特に大谷氏とはともに県警という職域もあつて親交が厚かった。

副支部長としても支部長を長きにわたり補佐してこられた井野元氏は諸事に造詣が深く冷静沈着、頭脳明晰な方である。また、警察官の要職を永年にわたり勤めて来られたこともあり、危機管理、安全対策に精通され、抜群の指揮力を兼ね備えておられる。このように井野元氏は、我が宮崎支部の新リーダーとしてもつともふさわしい方である。

氏の登山への契機は、延岡署勤務時代に九州の秘境といわれる大崩山の幽山溪谷に魅せられたことによると聞いている。その感動がきっかけとなつて自然保護および登山者の安全を期す目的から氏が中心となり宮崎県警山岳救助隊を組織され、昭和38年から大谷前支部長が手がけてこられた宮崎家庭

特殊切手「登山・山岳切手」の発行

日本山岳会の創立100周年にちなんで、郵政公社が登山や自然に親しみを持つことをテーマに、「山岳」や「高山植物」をデザインした特殊切手を発行します。ふるってご購入ください。

額面は50円切手で1シート20枚です。意匠は「槍ヶ岳」「ミヤマオダマキ」「穂高岳」「ハクサンイチゲ」(写真左から)の4種類です。5月2日(月)に全国の郵便局で発売。

発売日に主要都市の中央郵便局と松本郵便局で特殊スタンプを押すことができます。郵便による申込みは4月22日までに松本郵便局まで。



裁判所からの非行少年補導委託として登山を通した教育をも受け継ぎ、さらに子ども登山教室を開催するなど、山、自然を舞台とした幅広い教育を実践されている。

昭和60(1985)年の設立当時30名前後であった会員数は、今や100名を超える大所帯となっている。支部長として、この多くの支部会員の要望をまとめるためには大変なご苦労もあることと推測される。新支部長の負担を軽減し円滑な支部活動を遂行するため

には、会員ひとりひとりが皆主役という意識のもとに支部長を補佐することがもつとも重要であろうと考える。井野元支部長の旗印の下に支部会全員で支部活動を盛りたて楽しく安全な山行が遂行できるような努力しなければならない。本部をはじめ全国の会員の皆さま方におかれては、宮崎支部の円滑な運営に、なお一層のご協力とご指導賜りますようお願い申し上げます。

(荒武 八起)

東 西 南 北



イラスト・宇都本慎一

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

シュラギントワイト
『アトラス』旧蔵者の
たわごと

松崎 中正

私の村の無住の寺のご本尊は小さな釈迦如来で、灌仏会の「おしやかさま」の日には甘茶をかけられます。鍍金が剥けて古色蒼然としておりましたよみ人しらずのお釈迦様でしたが、先年仏師のところへ行って金ぴかになってお帰りになりました。村人はきれいなつたと大喜びですが、私は内心がっかりしています。

国宝平家納経といえ、知る人ぞ知る装飾経の最高峰、長寛2(1164)年、平清盛が一門の繁栄を祈願して厳島神社に奉納し

たものです。この善美の限りを尽くした法華経には、当代の絵画、書跡、工芸の最高水準の結集を見ることが出来ます。経は30年ほど前に昭和の大修理が完成しました。例えば、料紙の表裏を2枚に剥いで中に薄い紙を挟んで補強したのです。当然経巻が太くなりました。細くスリリとした乙女がでっけい肥えたおかみさんになってしまった感じがです。経巻には平安時代の紐がついていましたが、これも新しくされてしまいました。題簽は、銀台に鍍金を施した美しい金具がそれぞれの経巻の太さにぴったり合わせて作られてありましたので、当然のこと、それらは太った経巻に合うはずがありません。さらに33巻の写経は、それらがきっちり収まっていたこれも国宝の「金銀

莊雲竜文銅製経箱」に入らなくなつてしまいました。以上は大修理が平家納経の原形を損ったほんの一部の例です。この文化財の「現状変更」は多くの識者を悲しませています。

なにしろ、長い歲月の間にはいろいろと痛みが進みます。古美術界の大御所益田鈍翁の有名な言葉に「見せれば減る」というのがあります。法隆寺などのように、見せなくても減るものもありますから、修理はやむをえません。しかしそれは必要最小限度にとどめ、できるだけ原形を保つよう努力す

るべきでしょう。

さて、シュラギントワイトの『アトラス』は150年ばかり前の制作ですが、さほど染みもなく、わりあいきれいです。これがどんな来歴を経てロンドンからわが図書室に迎えられることになったか興味あるところですが、水野さんがおっしゃるように、とにかく「うぶ」はたいへん貴重です。しかしビプリオマニアは、ソレがかわいければかわいいほど要らぬおせっかいを焼きたい。私が何か所か汚してしまいましたのも、そんなわけなのだ、どうぞお許し願

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの
家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店
アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーにお泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデューをご滞在中の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より地元産リキュールをプレゼント。



あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご用意します。

お問合わせ
お申込みは **アルプスウェイ**

<http://www.fellow-travel.co.jp/>

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスヴィップ渋谷ビル4F

Tel.(03)5489-9541 Fax.(03)5489-6300

e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp

〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F

Tel.(06)6347-8984 Fax.(06)6347-8986

e-mail osaka@fellow-travel.co.jp

主催：株式会社 **フェロートラベル** （株）フェロートラベル

国土交通大臣登録旅行業664号 協賛：ウェンゲン観光局・ツェルマツ観光局 後援：スイス政府観光局



Climbing & Medicine · 43

効果のある体力トレーニング
をしていますか？

山本 正嘉

安全で快適な登山をするために、普段から体力トレーニングをしている方は多いと思います。しかし、トレーニングをしていることと、それが実際の登山に役立っているか、ということは別問題です。この問題について、約7000人の登山者へのアンケート調査をもとに検証してみました。ところ、ちょっと心配なデータが出てきました。

このアンケートの回答者のうち、全体の7割以上の人はトレーニングをしていると答えていました。その種目は、1位がウォーキング、2位が階段昇降で、それぞれ8割と3割の人が実施していました。登山は歩く運動ですし、坂道を上り下りするので、一見合理的なトレーニングをしている人が多いようにも見えます。

ところが、これらのトレーニングが山での身体トラブルを防げているのかについて統計解析をしたところ、その効果は小さいという結果が出ました。山でのトラブルを多い順にあげてみると「筋肉痛」「下りで脚がガクガクになる」「膝の痛み」「登りで心肺が苦しい」……となり

ますが、これらのいずれに対しても防止効果はあまり見られなかったのです。

何がいけないのでしょうか。またどうすればよいのでしょうか。予想も交えてですが、私が考えた答えは以下のようなものです。

ウォーキング：登山は荷物を背負って坂道を上り下りしますが、ウォーキングではもっぱら空身で平地を歩きます。このため、脚力や心肺能力へのトレーニング効果は不十分なのです。改善策としては、できるだけ坂道や階段を取り入れたウォーキングをすることだと思います。

階段昇降：登山によく似た運動をしているのに山で効果が出てこないのは、おそらく駅やビルの階段を数回上り下りしただけで満足している人が多いからでしょう。公共施設の階段は1段が約16cmです。これをもとに計算すると、駅の階段の標高差はわずか5～6mにしかありませんので、数回上り下りするだけでは「焼け石に水」です。改善策は、最低20分間以上は行う、あるいは上り下りとも標高差にして100m以上は行うことだと思います。

どんなトレーニングでもやらないよりはずっとましです。しかし、すでにトレーニングを励行している人は、改めてそのやり方を見直してみるのも悪くはないと思います。たとえば登山の場面をイメージしながら、「このトレーニングは登山のどの場面でどう役立つのか」と考えながら行くと、思わぬ発見もあると思います。

います。

その弁解としてひとつ。蘭亭叙は、書を志す誰しものがあこがれる古典です。書聖王羲之の真跡は、太宗に酷愛されたあまり昭陵に殉葬されてしまったと伝えられます。が、『定武本』『神龍本』など、その唐代の模本はたくさん存在します。それらには、それを熱愛した宋、明、清の諸家の題跋や神印がおびただしく見られます。中には100顆以上もの印が押されている壮観な帖があり、押印は今日これら古典の研究に大いに役立っています。

『アトラス』の何か所かに押してある朱印は、岑参の七言古詩のなかの私の大好きな一句で石井雙石の刻です。ここにこの有名な詩の全部を掲げます。

胡笳歌送顔真卿使赴河隴

君不聞胡笳声最悲。紫髯綠眼胡人吹。

吹之一曲猶未了。愁殺樓蘭征戍兒。

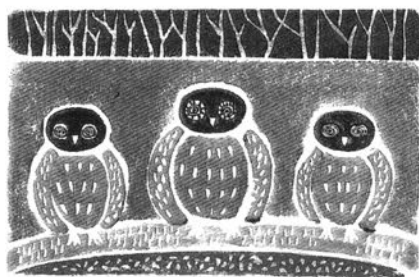
涼秋八月蕭關道。北風吹斷天山艸。

崑崙山南月欲斜。胡人向月吹胡笳。

胡笳怨兮將送君。泰山遙望隴山雲。

辺城夜夜多愁夢。向月胡笳誰喜聞。

図書紹介



幸せを呼ぶ鳥 版画・奥野溪石

日本山岳会学生部・刊

「日本山岳会学生部」ムスタン遠征2004 報告書

久しぶりに出た、本会学生部のクリーンヒットと言うべき遠征の報告書。千葉、早稲田、立教、学習院の各大学から集まった5人が短い準備期間にもかかわらず、やる気とチームワークと周囲の協力などの追風にも助けられて、未踏峰に登頂するという痛快な記録である。

計画から実施まで、外部にはほとんど知られていなかったが、登ったと聞いたときの中堅オヤジOBや青年部の反応は、「今どき、

そんな山があったのか!」「スゴイ着眼点!」「上手くやりおったのー!」といった意外性を評価する声が多かった。

しかし、中高年のわか登山隊が、簡単に登頂できるものではないことは、断っておく必要があると思う。和田隊長は早稲田が偵察しながら実施できなかった計画を拾い上げて、自分の間合いに合うと思ったところで、隊員を物色し一気に実行に移していく。文中には現れないが、学生部、指導委員会や各大学山岳部の後方支援も相当あったと思われる。

現在の学生気質に悲壮感はない。遠征といってもこの5人はチャンスがあればまた来年も行くだらう。各大学の同好会でもヒマラヤ・トレッキングへ行ける者は多い。山岳部こそ「伝統」という呪縛にとらわれていたのではないだろうか。和田隊長が「全員が登頂できると思われる山」を選んだり、千葉大学の吉永監督が「やらせればできる」としているのは、大学山岳部はもはや夜が明けて明るくなっているぞ、と言っているようなもので、部員が少なくて代が抜けていても「連合軍」を構成するノウ

ハウがあれば、学生も指導者も悲観することはないのである。

彼らが90年代後半からの学生部のそうした流れを受け継ぎ、次代に伝えていこうという熱い思いは容易に読みとれる。しかし、そこそがヒマラヤより困難な障壁であることは会員の大多数の生き様に現れている。負けるな! ワカゾー!

彼ら自身が語るように、目指す山頂はまだずっと先である。やめたくなる日もあるだろう。しかし、老若男女に拘らず山岳会が進み続けられる原動力は、平林副会長

が巻頭に述べているところにあると思う。

「何ごともそうでしょうが世界で初めてということが、事の大小に拘らずどれほど大変なことか、そこは誰しも経験したことのない、辛く厳しい未踏の分野が広がっているからであります。」

(野沢 誠司)

2004年12月 日本山岳会
学生部発行 138頁

(送料別2000円で頒布。申込はFAXかハガキで日本山岳会事務局まで)

おれ にんげんたち

——デルスー・ウザラーはどこに——

黒澤明が感動したように、デルスーに魅かれて



探検家アルセニエフの生涯とその足跡をウズリーのタイガにたずね、デルスー像の検証から、二人の友情、自然と人間のかかわりを豊富な資料を駆使した巧みな筆致で探究する。

岡本 武司 著
四六判 220頁 1,890円(税込)

カラコルム・ヒンズークシュ 登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入
385ページ B全判地図13葉
宮森常雄(秩父宮記念山岳賞受賞)・
雁部貞夫 共著 ・カタログをご請求下さい

◎好評発売中!!

34,650円(税込)

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15
Tel.075-723-0111 Fax.075-723-0095
URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>

日本大学山岳部、桜門山岳会・編

『日本大学山岳部 八十年の歩み』

二〇〇四年

創部八十周年記念号

1924年の創部以来山岳部の卒業生は419人、桜門山岳会の現在の会員数は258人とある。内外に大きな足跡を記している日大山岳部の記念誌である。

第1章の『通史』には「山あり谷あり。行き詰まり―打開―行き詰まりの繰り返し」の歴史が60ページにまとめられている。創部から1955年ころまでをとくに詳しく書き込んだという。歴史の古い山岳部はどこでもそうだが、高齢化に伴い、いま確認して残しておきたい記録にスペースを割きたいということだろう。

第2章は『戦前OBの回想録』。初見一雄さんの「常さん」を味わい深く読んだ。初出はJAC会報の『山』で、昭和42年12月から12回に分けて連載された。徳本峠越えで出会った「上高地の常さん」との親しい付き合いを語る軽妙洒脱な文章が古きよき時代を回想させる。編集者は初見さんの数多い

文章の中からとくにこの一文を選んで収載したと思われる。どちらかといえば堅い文章が多いだけにほっとさせられる。

戦前、戦後、国内での『山行記録』に続いて第5章は『海外登山活動』である。桜門山岳会の3つの柱とされる「ヒマラヤ」(筆者は松田雄一さん、神崎忠男さん)、「南極」(平山善吉さん)、「北極点」(池田錦重さん)に、会がどう関わってきたかが詳述されている。

日大OBによる日本山岳会「山日記」への編集協力がマナス登山への参加に通じ、その後長い道のりを経て1995年(70周年記念登山)のエヴェレスト北東稜初登で結実する。

こうしたヒマラヤへの道とは別に、8人の犠牲者を出した1954年11月の富士山雪崩遭難が、合同捜索本部でいっしょだった東大山の会との縁で南極観測隊参加につながり、南極で育まれた極地への関心がグリーンランドから北極点への計画に進んでいった。『極地の日大』の面目躍如であり、記念誌だからこそすっきりと見通せる会の大きな流れである。

『付表』として「年次別積雪期主

要山行年表」「海外登山年譜」「関連図書(会報総目録ほか)」などがあり、よく整理されていて参考になる。

「当部には数多くの部内誌が残されているが、対外的にその活動を報告されているものは少ない」という日大山岳部の、貴重な80周年記念誌である。(成川 隆顕)

2004年11月刊 275頁
(2500円で頒布。申込は日本山岳会事務局まで)



イラスト・宇都木慎一

新葉社・編

『奥天竜ろまん紀行』 「1億年の旅―南アルプス」

南アルプスをめぐるミステリアスな魅力がよみがえってきた。今まであまり知られていなかった天竜川の中下流域や三遠信(三河、遠州、南信州)地域の自然、歴史、



個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをここから取っています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 **アトラストレック**
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 三栄ハウス202 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋千種区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422



文化などがその舞台。珠玉の文章と迫力ある写真とで構成された驚きの臨場感だ。

執筆陣には現地に入り、目で見て感じた現在の姿をリポートしてもらったという。新鮮な感性と遊び心が、読者のロマンを呼び起す。

本書は全6巻、まずは第1巻の刊行だ。(田畑 真一)

2004年5月 新葉社発行

144頁 2200円 問合せ

は発行元へ TEL 0265-221

2232 FAX 0265-2213

332

会務報告

1月理事会

日時 1月12日18時30分～20時30分
場所 日本山岳会 会議室

出席者 平山会長、芳賀、平林、橋本各副会長、藤本、今村、小川、朴元、大蔵、賛田、田村、黒川、鈴木、野口、石田、篠崎、鳥居各理事、内田、一力各監事、宮崎、小倉(董)、重廣各常任評議員
[委任] 鰐坂、西村各常任評議員

【審議事項】

1 創立100周年記念事業行事実行委員会経過報告について

1 記念誌刊行

① 百年史刊行 配布方法等要検討 芳賀

② 英文ジャーナル刊行 執筆依頼 藤本

③ 新日本山嶽誌順調に推移 藤本

2 登山

① 海外登山 大蔵

● 事業委員会 マナスル峰(8164m) 2005年4月15日～6月1日

● 東海支部 ラカン峰(6250m) ほか 2005年7月13日～

8月17日

● 福井支部 ジャンリズ峰(6214m) 2005年9月3日～19日

● 富山支部 ギャジカン峰(7038m) 2005年9月4日～10月16日

以上が本年に計画されている。

② 中央分水嶺踏査 石田

未整理分を勘案すると踏査率は約50%である。踏査不能部分を今後どのようにするかを事務局担当者会議や分水嶺踏査委員会検討する。

③ 海外トレッキング 黒川

12コースへの問合せが1000人に満たず問題あり。今後も『山』などを通じてPRを重ねる必要がある。

3 式典

① 総合式典 藤本

10月15日(土)新高輪プリンスホテル「飛天」の間で開催することが決まっている。招待者等の明細は2月の理事会で決めた。

② 記念映像資料 鈴木

写真で見える100年史の写真展とグラフィティーを検討中。

③ ブロック別式典 藤本

ブロックおよび式典を行う場所が別紙の通り決定した。

4 記念フォーラム

① フォーラム

● シンポジウム「これからの日本山岳会のあり方を考える(仮)」 重廣

● フォーラム「青年と山へ行こう」 黒川

などの企画があり、今後取りまとめをして実施することとなった。

② 森づくり活動 篠崎

● 4月9日～10日 自然保護全国集会および記念植樹(高尾の森)

● 6月24日～26日 白神山地育林事業記念植樹祭(青森支部)

● 猿投の森づくり(東海支部)

③ 図書展 田村

10月上旬2週間程度、丸善丸の内新社屋4Fにて実施する。同時に絵画も展示する。

今後図書、絵画の保険、保存問題も検討したい。

④ 医療ハンドブック 野口

登山の医療ハンドブックの刊行とともに、出版記念講演会を6月7月に予定している。

5 募金委員会 芳賀

会員募金、有志会員募金、大学山岳部募金、企業募金を合せて現在の実績は3190万円であり目標の37・5割である。会員全員の協力をもとに目標を達成したい。1月中旬に拡大募金委員会を開催する。

6 施設検討委員会

小川 本部ルームの改装計画について、会員の意見を聞きながら本年10月までに完成するべく努力する。(第1回の意見を聞く会を2月4日(金)に実施する。)

以上のとおり報告されたが、予算のオーバーは認めない。

● 3月号に4ページの100周年 会長

日本山岳会創立100周年記念

河口慧海の足跡をたずねて

A) 国境の峠探訪とカイラス1周トレッキング 33日間
9/12(月)～10/14(金) 785,000円

B) 秘境ムスタン・トレッキング 22日間
10/18(火)～11/8(火) 645,000円



国土交通大臣登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 ⑤ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

図書受入報告 (2005年1月)

著 者	書 名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
日本の森と自然を守る全国連絡会 (編)	森林再生へ新しい市民参加の方向性報告集 (2004年9月25日)	65pp/31cm	日本の森と自然を守る会	2004	篠崎仁氏寄贈
吉川信市	水を飲む人掘る人:地下水と国際協力 (海外渡航45回記念文集)	199pp/19cm	文芸社	2004	著者寄贈
舟橋栄子 (編著)	アコンカグアの白い風	199pp/26cm	山と溪谷社	2004	著者寄贈
ウインバー (著) 大貫良夫 (訳)	アンデス登攀記 下巻 (岩波文庫 No.赤239-4)	304pp/15cm	岩波書店	2005	訳者寄贈
斉藤善久	山と人と:ぬくもりのある風景	271pp/20cm	文芸社	2005	出版社寄贈
高桑信一	古道巡礼	415pp/20cm	東京新聞出版局	2005	出版社寄贈
Stephen Goodwin (ed.)	The Alpine Journal 2004 (Vol.109)	423pp/22cm	The Alpine Club	2004	発行者寄贈
Mark Watson (ed.)	New Zealand Alpine Journal 2004 (Vol 56)	160pp/25cm	New Zealand Alpine Club	2004	発行者寄贈

特別紙面を作る。 今村

のコメントがあった。

2 長期目標検討委員会の提案について

1 理事懇談会が開催された。藤本
12月21日理事懇談会が開催され
別紙のとおり提案がされた。

さらに検討を進め、できるところから本年の総会にはかることとした。

なお、長期目標検討委員会の提案内容は1月号『山』に掲載。

【報告事項】

以下の件が担当者より報告され承認された。

1 会報『山』1月号の内容について 今村

トップ記事は平山会長の新年の挨拶「100周年を成功させよう」である。

2 『Japanese Alpine News』Vol.6について 藤本

別紙のようにVol.6の内容について紹介があった。

3 文部科学省の実地検査報告 藤本

別紙のとおり12月14日に文部科学省競技スポーツ課担当者により、本会集会所において行われた。今後インターネット上への情報公開

の推進についての助言をいただいた。

4 平成17年行事予定 藤本

1月から12月の行事予定のうち現在決定している主な行事の日程を発表した。詳細別紙

5 晩餐会回答分析について 藤本

● 年次晩餐会の回答率 (出、欠の連絡のあった人) は46割と5割を切っている。

● 在籍率は80割と比較的よい。

● 在籍率のよい年次は同期会がスタートした時から始まっている。(とまり木が大切である)

今後募金状況とも比較したい。

6 会員移動状況について 橋本

会員数の増減を平成元年よりまとめた。

別紙のように減少傾向にある。

7 資料掲載許可申請 藤本

● 信越放送「ウェストンが愛した上高地」

● 市立大町山岳博物館「北アルプスの自然と人」

● ナカニシヤ出版「新日本山嶽誌」

表紙に正章等

8 支部新年会出席 藤本

山梨支部 朴元常務理事

信濃支部 大蔵常務理事に決定

会員異動

物故 荻部美江 (10872) 04・10

川口 章 (11615) 05・1・18

櫻井 昭 (11006) 05・1・25

退会

小林浩一 (9039)

鳴谷節夫 (10405) 北海道

加藤久晴 (10519)

岩城富美 (11413) 関西

森岡昌利 (11602) 関西

崔 蓮任 (11720) 北九州

橋本讓二 (12246)

門脇哲朗 (12433)

宮川仁一 (12548)

田中美智代 (13028) 宮崎

出口祐一郎 (13438) 宮崎

川原和子 (13473) 宮崎

『会員名簿』探し協力の御礼

『山』716号19ページ末尾の「付記」でお願いに対して、会員総数の把握に必要な『山岳』12年1号付録の会員名簿が、関西支部委員の宗實慶子会員の協力により、見つかった旨の朗報が入り、早速コピーの提供をいただきました。百年史委員会より報告がありました。ご協力ありがとうございました。

INFORMATION



イラスト 宇都木慎一

◆白神岳山行のお知らせ

事業委員会

100周年を記念して若葉山行
を左記のとおり計画しています。

期日 6月24・26日

集合 東京よりバスの運行を予定
定員 40名

*定員になり次第締め切ります。
*詳細は次号に掲載いたします。

◆神室山避難小屋使用禁止のお知らせ

新庄市商工観光課

秋田、山形県境の神室山の避難
小屋は、老朽化が顕著で倒壊等
のおそれがあり、5月1日より使用
禁止の措置をとりました。

昨年、修繕による維持を検証す
るため調査を行いました。基礎
部分の劣化、水浸透による木材
および接合部の激しい腐食、内部柱
の傾きにより、修繕では対応不可
能との結果となりました。

平成17年度事業委員会行事予定表

4月15日～ 6月1日	海外登山	マナスル
6月24日～ 26日	若葉山行 (青森支部共催)	白神岳登山後100周年記念 白神山地育林事業参加
7月16日～ 18日	夏山山行	鳥海山
8月下旬～ 約1週間	海外スキー	ニュージーランド・ mt.クック
10月7日～ 10日	紅葉山行	韓国雪岳山・ 慰山岩登攀
10月16日	晩餐会記念山行 (自然保護委員会共催)	景信山・100周年記念 高尾の森事業進捗状況
1月7日～ 9日	国内スキー	未定

ルーム日誌 1月

6日 山岳地理クラブ
7日 図書委員会 高尾の森実行
委員会
11日 常務理事会 総務委員会
二火会
12日 理事会 アルパインスケッ
チクラブ つくも会
13日 学生部 青年部 アルパイ
ンスキークラブ
14日 フォトビデオクラブ 山の
自然学研究会

17日 総務委員会 資料・映像委
員会
18日 百年史委員会 事業委員会
山研委員会 インターネッ
ト小委員会 九五会
19日 学生部 三水会 アルパイ
ンスケッチクラブ
21日 緑爽会
25日 自然保護委員会 00会 山
遊会
26日 海外登山基金委員会 ゆき
わり会 アルパインスキー
クラブ

27日 100周年記念募金委員会
学生部

28日 100周年記念式典委員会
1月来室者525名

■訂正 2月(717)号10ペー
ジ2段8行目の松沢貞一氏は、今
年度分の会費も払い込み済の会員
です。お詫びして訂正いたします。

◆編集後記◆

●3年半にわたって、会報編集の
実務をお願いしていた加計さんが、
ご主人の転勤で外国へ行くこと
になりました。小生の任期は残り3
か月ですが、いろいろな方にお手
伝いをいただきながら任務を全う
したいと思っております。

●会務の方も100周年事業計画
が着々と進行しており、総会前に
忙しくなっております。

(今村千秋)

日本山岳会報 山 718号

2005年(平成17年)3月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 平山善吉
編集人 今村千秋
Eメール jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社